

宮崎県教育研究連合会

管理職等任用試験練習問題(2016年度版)

- 1 練習問題です。研修会までに、各自で、内容を研究しておいて下さい。研修会では、模範解答を示し、内容を検討します。ただし、問題数が多いので、全ての問題について、事前に検討する時間はないかと思います。問題に目を通すだけでも結構です。
- 2 内容を欲張りすぎたので、相当に、設問が多くなりました。また、解答欄が、狭いかも知れません。その場合は、別紙等をお願いします。
- 3 全て（校長教頭 共用）として作問してあります。しかし、設問によっては、「教頭として」等の指定があるものもあります。その場合は、各自の受験される職種に読み替えての解答をお願いします。
- 4 今回の内容は以下の通りです。過去の宮崎県の出題傾向を勘案し、あまり出題されていない内容項目を中心に作問しました。
 - 1 いじめ防止
 - 2 児童生徒への懲戒
 - 3 体罰問題
 - 4 道徳教育の充実
 - 5 教科用図書
 - 6 信頼される学校づくり～保護者・地域との連携
 - 7 信頼される学校づくり～教職員の資質向上

1 「いじめ防止」《校長・教頭 共用》

平成25年9月にいじめ防止対策推進法が施行されました。これについて、次の設問に簡潔に答えなさい。

- (1) この法律におけるいじめの定義を述べなさい。
- (2) この法律では「学校いじめ防止基本方針」の策定が義務づけられています。この「いじめ防止基本方針」とはどのようなものですか。
- (3) あなたの学校のいじめ防止基本方針の基本理念はどのような内容ですか。
- (4) 同法では、「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」の設置が義務づけられています。あなたの学校では、どのように設置していますか。構成員、開催時期等を述べなさい。
- (5) 学校いじめ防止基本方針は、点検と見直しが必要です。どのような点に留意して、点検・見直しをすべきか、あなたの意見を述べなさい。

2 「児童生徒への懲戒」《校長・教頭 共用》

次の設問に簡潔に答えなさい。

- (1) 学齢児童・生徒への懲戒は誰が行うか書きなさい。
- (2) 児童・生徒の懲戒について規定している法令は何法の何条か。
- (3) 「校長及び教員が児童等に懲戒を加えるに当っては、児童等の心身の発達に応ずる等教育上必要な配慮をしなければならない」と規定している法令は何法の何条か。
- (4) 児童・生徒への懲戒の種類を2つ書きなさい。
- (5) ①懲戒の性格について説明しなさい。②また、懲戒の具体例を4つ書きなさい。
- (6) 公立学校の校長は学齢児童・生徒を退学・停学処分にできるか書きなさい。
- (7) 児童・生徒に懲戒を加える際の留意事項について、管理職として若手教員をどう指導するか法令等を踏まえて述べなさい。
- (8) 清掃終了後、校内を見回っていると、昇降口付近から教員の大きな声が聞こえてきた。様子を見ると、教員が数人の児童を正座させたまま、かなり感情的な口調で叱責している。このような場合、管理職（教頭）としてどう対応するか述べなさい。

3 「体罰問題」《校長・教頭 共用》

次の設問に簡潔に答えなさい。

- (1) 体罰とはどのような行為をいうのか2つ述べなさい。
- (2) 体罰禁止の根拠となる法令名を何条まで書きなさい。
- (3) 職員が体罰を起こした場合、問われる責任とそのを3つ書きなさい。
- (4) 平成25年3月の「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」(通知)に懲戒と体罰の区別が記載されている。
 - ① 懲戒と体罰の違いを説明しなさい。
 - ② 体罰の防止に管理職(教頭)としてどのように取り組むか述べなさい。

4 「道徳教育の充実」《校長・教頭 共用》

平成27年3月に学習指導要領が一部改訂された。これについて次の設問に簡潔に答えなさい。

- (1) 今回の改訂の概要として3項目あげ、簡潔に述べなさい。
- (2) 従来の「道徳の時間」の目標と、新たな「特別の教科道徳」の目標の相違点を3点あげなさい。
- (3) 内容項目については、小学校低学年で3つ、中学年で2つ増えているのに対し、中学校では2つ減っている。この項目の変更について、どうとらえますか。
- (4) 道徳教育の充実のため、教職員の指導力向上に関して、最も重要だと考えることは何ですか。
- (5) 道徳性の評価についての工夫が求められている。あなたは、管理職として、この問題にどう取り組みますか。

5 「教科用図書」《校長・教頭 共用》

次の設問に簡潔に答えなさい。

- (1) 教科書の使用義務について規定している法令は何法の何条か。
- (2) ①教科書の定義について説明せよ。②また、定義の根拠となる法令は何法何条か。
- (3) 学校において使用しなければならない「教科用図書」について、法律上3つ規定されている。高等学校等において適切な教科書がない場合に一般図書を「教科用図書」として使用できる場合の他、二つを答えなさい。
- (4) 教科書の採択に関する法令名を書きなさい。
- (5) 教科用図書（教科書）の検定制度の概要について、説明しなさい。
- (6) 教科用図書（教科書）の採択制度の概要について、説明しなさい。
- (7) 平成27年4月1日施行された「義務教育書学校の教科用図書の無償措置に関する法律の一部改正する法律」では、教科書の検定や採択に関する規定の改正が行われた。教科書採択については、どのような点が改正されたか。3点あげなさい。

6 「信頼される学校づくり～保護者・地域との連携」《校長・教頭 共用》

「信頼される学校づくり」を推進するためには、保護者・地域との連携が不可欠である。これに関する次の各設問に簡潔に答えなさい。

- (1) 保護者や地域との連携の必要性について、どのように考えますか。
- (2) 保護者や地域との連携により、どのような効果があると考えますか。
- (3) 保護者や地域との連携を推進するため、管理職であるあなたは、どのように取り組みますか。

7 「信頼される学校づくり～教職員の資質の向上」《校長・教頭 共用》

教職員には子どもたちの未来が託されており、今、学校には教職員の資質を高めていくための工夫が求められている。信頼される学校づくりの推進ため、あなたは校長として、教職員の資質向上に向けてどのように取り組むか。具体的に述べなさい。